

令和7年度栃木県子どもモニター 第2回ワークショップ 実施報告

令和7年9月19日、第2回目となる「子どもモニターワークショップ」を栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校にて開催しました。

当日は、3年生の全クラス106名が参加し、5~6名の18グループに分かれ、「大人になっても栃木県に住み続けるためには何が必要か」をテーマにしたディスカッションを行いました。

最初に、参加生徒同士がリラックスして意見を出しやすくするため、アイスブレイスタイムとして「栃木県に住み続けるために大事だと思うこと」について意見を出し合いました。

アイスブレイクで出された意見を「子育て」「教育」「仕事」「健康」「安全・安心」「自然・環境」の6つのテーマに整理・分類し、各グループで、「何があれば暮らしやすいか」「どのような環境が必要か」などについて意見交換を行いました。

発表は、他のグループの意見も聞きながら意見を交流させるワールドカフェ方式で行いました。グループを横断して多様な視点を共有できたことで、考えをより深める機会になりました。

中学生ならではの自由な発想で、地域社会や生活環境に関する課題を自ら考え、仲間と意見を共有することで、県に対する理解や関心を高める時間となりました。

※令和7年度栃木県子どもモニター事業では、県内で若者の声を聞くワークショップを実施しています。

